

## 児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2024年2月22日

①→はい ②→いいえ ③→どちらともいえない ④→わからない

事業所名：であいJUMP

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指導内容に応じて椅子や机を移動させるなどを行い、十分なスペースを確保している。	①13名 ②0名 ③0名 ④2名	事業所を気軽に見学できる機会を設けている。
	2 職員の適切な配置	常に定員10名に対し、3名の児童指導員を配置し、さらに2、3名の指導員を配置している。また送迎専属の人員も確保している。	①15名 ②0名 ③0名 ④0名	活動内容に応じて人員の調整を適切におこなっている。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	毎日、その日の出欠を児童自身がサインを行い確認している。活動内容を分かりやすく説明、確認し、見通しを立てるよう心がけている。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	保護者の方々にも情報伝達に対するサポートを行っている。ラインの活用など様々な方法で連絡の強化を行う。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	活動スペース、送迎車、おもちゃ等はこまめに除菌を行っている。また清掃スタッフによる事業所全体の清掃も毎日行っている。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	引き続き感染症対策を行い、安心してお預けいただけるよう除菌や清掃を徹底していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	週に1回の全体会議やこまめな事業所会議にて個別支援計画に基づく支援目標を確認し合い支援の統一を心がけている。	/	しっかり情報を共有しあえる環境づくりをこれからも徹底していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	学校などで行われるカンファレンスに積極的に参加し、どのような事業所、サービスが求められているかを聞き社内でも共有している。	/	これからも交流できる様々な機会を有効に活用していきたい。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	週一回行われる会議にて話し合い、支援の質の向上に努めている。研修は参加できるものは積極的に参加している。	/	会議や研修を通して支援員同士がお互いに資質を高め合っていける環境づくりを目指している。
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	年に2回保護者と面談を行い、ニーズに合わせた計画を立てている。	/	今後も保護者や子どもたちに合わせた適切な計画を立てていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	JUMP(中高生)では個別で受験や就労に向けた学習を行い、集団では生活学習として洗濯学習、買物学習、洗髪(清潔)学習等を状況に応じて行う計画を立てている。	①15名 ②0名 ③0名 ④0名	児童一人一人の状況に応じ、何の学習が必要か見極め実践していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
提供	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	面談等で目標を設定し、活動後は連絡帳にて保護者へ支援内容等を報告している。その際写真なども添付している。	これからも保護者の方々に活動内容をわかりやすく報告していけるように工夫する。	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	児童一人一人の計画に沿った支援を実施している。スタッフ間で共有し統一した支援を行っている。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	個別支援計画を立てた後でも状況をしっかり聞き取りその時にあった支援を行っている。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	児童一人一人に合った活動を各スタッフが積極的に立案し、支援方法の共有を行っている。		今後も様々な視点から活動を立案し、子どもたちの活動意欲、知的好奇心を高めていきたい。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は宿題のサポートや公園で体力づくりなど無理のない活動を行い、休日は遠足など平日とはことなる活動、支援を行っている。また休日、長期休暇は給食学習も行っている。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	好評をいただいている給食制度の給食メニューをさらに充実させ、これからも保護者の負担軽減になればと考えている。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	音楽、工作、学習、絵画、運動等大きく活動予定は決めているが、季節に応じた活動を取り入れたり、外国語学習の時間を新しく取り入れたりしている。		曜日毎に予定を決めてほしいという意見を取り入れているが、児童一人一人の状況や興味に応じて柔軟に活動内容を決めていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日、送迎前に送迎表を全員で確認し利用者の出欠確認、活動内容の確認、役割をしっかりと共有している。		今後も送迎表を毎日作成することで利用者を把握し活動内容と照らし合わせて各スタッフの役割をもれなく確認していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	送迎が終わった後もう一度ミーティングを行い話した内容を職員同士の業務用ラインにて共有。当日の振り返りや次の日の連絡を行っている。		職員一人一人の小さな「気づき」を大切に今後もそれらを支援に活用していきたい。こまめに事業所内ミーティングを実施していきたい。
	10	日々の支援についての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	活動内容や目標に対する評価等をその日の連絡帳に記録し保護者と共有し、それに基づき計画と照らし合わせて支援終了後のミーティングで検証・改善点等を話し合っている。		ミーティングで話した内容は事業所会議で共有し、次の支援に繋げている。議事録を作成し、常勤非常勤関係なく全体に周知できるよう努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	1年に2回程度保護者と面談を行い、支援計画の見直しを行っている。		今後も状況やニーズに応じた適切な計画を立てられるようにしっかり面談を行う。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	各児童を担当している相談員の方々と密に連絡を取り、事業所での面談や必要があれば児童波立管理責任者が会議に参加している。	今後も相談員の方々情報共有、連携をはかりながら支援を行っていききたい。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当者なし	今後、必要があれば地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施を行う。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当者なし	今後は必要に応じて子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備を行っていききたい。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	特別支援学校の教員、特別支援学級の先生相談支援員と会議や電話、直接の会話を通して十分な情報共有をしている。	学校の先生からの日々の様子の聞き取りは大切な情報なので今後も共有し良好な関係づくりをしていきたい。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	卒業する児童の必要な情報はすべて提供、共有しその児童やご家族が不安にならないように十分なサポートを行っている。	相談支援員を通し、児童が安心して将来のことを考えられるように今後もサポートしていく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関が行っているフォローアップ研修などに積極的に参加し、支援意識を高めている。	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進を行う。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	該当なし。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	感染症拡大を考慮し、実施を見合わせているが今後は積極的に行っていきたい。現在、ミーツ福祉への参加を検討中。	①8名 ②0名 ③0名 ④7名	今後は事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営を行っていきたい。	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	①15名 ②0名 ③0名 ④0名	今後も各保護者に合わせた方法でわかりやすい説明を心がける。	
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	①14名 ②0名 ③0名 ④1名	今後も各保護者に合わせた方法で個別の支援内容等のわかりやすい説明を心がける。	
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	①15名 ②0名 ③0名 ④0名	今後も各家庭が安心して児童を通所させられるようにサポートしていく。	
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	日々の送迎や連絡帳にて密に連絡を取り、情報を共有し、理解している。困りごとや心配事にはスタッフ一同全力で対応している。	①15名 ②0名 ③0名 ④30名	学校、相談員などから得た情報等ををしっかり共有し、支援に反映させていく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談を受けた際、適した対応スタッフがしっかり児童の様子を踏まえて相談に乗り適切な助言を行っている。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	今後も保護者から相談をされるような信頼関係を築いていきたい。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	感染症拡大を考慮し、実施を見合わせているが今後は積極的に行っていきたい。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	感染症対策を行い実施していきたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情の対応は現在ないが、今後そのような対応が必要な際は迅速かつ適切な対応を行う。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	苦情に対する対応体制整備や、周知及び苦情があった場合適切な対応ができるよう準備しておく
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	障害の程度や状況に応じて柔軟に情報伝達の方法を変えている。できるだけ負担のないわかりやすい方法を心がけている。	①13名 ②0名 ③0名 ④2名	保護者の方や児童の負担にならない連絡の方法をこれからも考えていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	公式ラインを用いて活動やイベントの連絡を配信している。ラインのない家庭はチラシを手作り参加を募っている。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	イベントや活動のお知らせもラインを通して行っている。今後もわかりやすく情報を発信できるよう心がける。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	写真を掲載する際は顔を隠している。個人が特定できるような書類はすべてシュレッダーにかけている。	①12名 ②0名 ③0名 ④3名	今後も個人情報の取り扱いには十分に配慮する。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアル作成し、周知を徹底するようにしている。	①15名 ②0名 ③0名 ④0名	今後は緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底を行う。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	一年に一回避難訓練を行っている。現在元消防隊員が当事業所に勤務しているため活きた避難訓練が実施できている。避難経路の確認もしっかり行っている。	①15名 ②0名 ③0名 ④0名	今後も様々な災害に応じた充実した訓練を行っていく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	一年に一回程度業務推進委員会行い、虐待防止に対する意識を向上させる機会を設けている。		今後も虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応を行っている。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	該当なし。		必要があれば説明ができるよう準備しておく
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	該当なし。		必要があれば医師の指示書に基づく適切な対応ができるように準備しておく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例集の作成は行っていないが事業所内での情報の共有の徹底を行っている。		ヒヤリハット事例集の作成を行い事業所内での共有の徹底を心がける。